

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日  
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30 ~ 13:30  
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566) 22-2111  
FAX (0566) 25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 加藤 真治  
幹事 兵藤 文男  
会報委員長 山下 雅則

2015 ~ 2016年度 国際ロータリー K.R. ラビンドラン 会長テーマ

Be a gift to the world 世界へのプレゼントになる

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2925回例会プログラム

[当年度=35回目; 当月=4週目]

2016年(平成28年) 4月25日(月)

## 1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告  
8. 幹事報告  
9. 出席報告  
10. 委員会報告  
11. ニコニコボックス報告  
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(5/2) ……休会  
(クラブ定款第6条第1節(c))  
(5/9) ……  
クラブフォーラム(青少年奉仕委員会)  
講師 地区危機管理委員会  
委員長 黒田 勝基 様  
(紹介者 下谷 敏朗 会員)

- 13:00 13. 本日のプログラム  
卓話 「自分のキャリアから感じる日本」  
講師 元アメリカ海軍パイロット・元外交官  
南山大学大学院ビジネス研究科  
教授 八木 エドワード ランツ 様  
(紹介者 杉浦世志朗 会員)  
14. 謝辞  
15. 点鐘……〈会長〉  
16. 閉会宣言

- 13:30 17. 散会

## 出席

会員総数 93名 出席免除 23名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 84名  
欠席 7名 出席率 91.66%  
前々回(4/11)の修正出席率 100%

## 会長報告

- 1) 23日土曜日、刈谷市国際交流協会総会ならびにミササガ市長歓迎レセプションに出席して参りました。

## 幹事報告

- 1) 4月24日日曜日、地区研修協議会が開催されました。次年度・役員・委員長の方々、ご出席ありがとうございました。



- 2) 廻っております義捐金ボックスは、熊本地震義捐金のボックス、お1人1千円以上の義捐金をよろしく願います。杉浦社会奉仕委員長は、熊本支援物資出発式に出ていますので、私が代読させて頂きました。  
3) 伊勢志摩サミットが近づいてきました。愛知県も地域を盛り上げるため協力しております。刈谷RCにも開催ポスターがきております。会社等にぜひ掲示して頂きたく、お持ち帰り下さい。  
4) 愛知県「自然環境の保全と再生の事例集」に、トヨタ車体(株)の刈谷ふれ愛パークと刈谷ロータリーの森が掲載されました。愛知県のHPにのっていますので、是非ご覧下さい。

●雑誌委員会

1) 本日、お配りしたロータリーの友5月号の22Pにロータリーデーの記事が掲載されましたので皆様ご覧下さい。

会長あいさつ

草船で3万年前の航海を再現

加藤 真治



7万年ほど前、ホモ・サピエンスのある一族がアフリカを出てインド北部あたりに住みついたと考えられます。その後、5万年前頃ある氏族は西へ、また別の氏族は東へと移動を始めたと思われます。

というのも、遺跡の年代調査結果から西ヨーロッパには4万5千年前頃、オーストラリアには4万7千年前頃、ロシアのバイカル湖近くでは4万5～6千年前頃の遺跡が残っています。

では、日本へはいつ頃やって来たのでしょうか？ 3万8～7千年前という列島最古の遺跡は、九州の熊本県と本州の静岡県や長野県にあります。北海道や沖縄では3万年前の遺跡があります。

では、どこからやって来たのか？ 5万年前から3万年前は最終氷河期のただ中で、海面は今より80mほど低かった。大陸から日本列島に渡ってくるルートとしては3つの可能性があります。1つ目は、朝鮮半島から対馬を経由して北部九州に来る。2つ目はサハリンから、当時陸続きであった北海道に入る。3つ目は当時大陸と陸続きであった台湾から、海を越えて琉球列島を点々と渡って来る。

2011年に静岡県にある井出丸山遺跡の発掘調査報告書が出版され、当地域最古の3万7500年前頃の石器の中に、伊豆諸島の恩馳島産の黒曜石が含まれていたことが報告されました。このことから、世界最古の往復航海が可能であったことがわかります。

ではホモ・サピエンスはどのように海に挑んだのか？ 人類学、考古学、海洋学などの研究者、海洋探検家が組み、琉球列島での「3万年前の航海」を再現しようという研究プロジェクトが始動します。今、チームが考えているのは竹を組み合わせたイカダかヒメガマなどの草をまとめてツルで縛る草船で、直線距離75km離れた与那国島から西表島への航海だそうです。成功すれば、台湾から与那国島への200km近い航海に挑む予定とのこと。

「自分のキャリアから感じる日本」

元アメリカ海軍パイロット・元外交官  
南山大学大学院ビジネス研究科  
教授 八木 エドワード ランツ 様



雇用の流動性

① 古代～19世紀  
平均寿命が比較的短い  
移動の危険性が高い  
技術的な変化が少ない  
社会的地位の流動性は低い  
⇒職業は若い頃に決め、「弟子」

期間から死ぬまで「やり手」

② 20世紀  
平均寿命が急激に延長  
誰でも移動が可能になった（移民の時代）  
技術的な変化が多い  
社会的地位は、「あなたは誰？」から「あなたは何ができる？」  
⇒“Who you are” 基準 は段々時代遅れ

③ 21世紀  
平均寿命が比較的長い  
移動は当然  
技術的な変化は普遍的・継続的  
社会的地位は「実力」  
⇒“What you do” 基準

■ これからは、“Who you are”は無意味になり、“What you do”が普遍的なだけでなく、人々は職業の中で「何をする」かが毎日のように変化する。特に技術的なパラダイム・シフトにより、今までのスキル価値がなくなる傾向が加速し、終生教育が必要不可欠になる。

■ 一人ひとりの身元(identity)の定義は、地元・職業・会社名から「世界社会に何が役立ったのか？」へ。

■ グローバル標準は不可避。日本は戦後、終生雇用や年功序列を効率良く利用したが、新しい時代に適応していない。国際競争の影響を受けて、変更することは避けられない。

■ 社会的地位は、何らかの基準によって序列化された人々の中で、個人の位置を示すものとして、すべてのものが含まれる。例えば、場所、宗教、職業、学歴、所得、資産、勢力、威信、人気、家柄等々において、高低、大小などの基準によって人々が序列化されるならば、それらは個人の社会的地位を構成する要素である。